

# 2015 年度 大阪大学 前期 日本史

## (I) 9・10 世紀における日中間交流

出題範囲	古代の外交・文化史
難易度	★★★☆☆
所要時間	20 分
傾向と対策	第 1 問は、9・10 世紀における日中間交流について問う問題であった。唐から宋にかわり、朝貢関係から私貿易を行う関係へと変化したことをきちんと記述できるかどうかポイントであったろう。遣唐使の派遣中止については記述できた受験生が大半であろうが、その後の日中関係は受験生にとっては盲点であったかもしれない。論述問題において、古代の日中関係の変遷は頻出のテーマであるため、これを機に、古代の日中関係の変遷を整理してみることをおすすめしたい。

### 《この解説の使い方》

**黒太字** …この試験で合格点を取るために必要な頻出語句を黒太字で記載した

**赤字** …解答に関連する語句・内容および知識としておさえておきたい内容を赤字で記載した

**青字** …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい年号を青字で記載した

#### 解答例

9 世紀前半は、日本は遣唐使を派遣して、唐から冊封は受けないものの、朝貢する形式をとっており、最澄・空海らによる新仏教導入にもつながった。しかし、9 世紀末に、唐の衰退や唐の商人の盛んな日本への来航を受けて、遣唐使が派遣されなくなり、中国との正式な国交は断絶した。10 世紀後半には、宋の商人が博多に来航して私貿易を行い、書籍、陶磁器や薬品などが輸入されたほか、僧が宋へ巡礼し文物を日本にもたらすなど、私的な交流が活発になった。(210 字)

#### 設問の要求

**字数** 200 字程度

**主題** 日中間の交流の内容

**条件** 9・10 世紀

#### 解説

本問は、9 世紀から 10 世紀にかけての日中間の交流を述べることが要求されている。このような時期による変遷を問う問題は時期区分して考えることが重要である。そこで、①9 世紀前半、②9 世紀後半～10 世紀前半、③10 世紀後半に分けて考える。

### ①9 世紀前半

日本は遣唐使を派遣して唐に朝貢しつつも、冊封は受けない関係をとっていた。8 世紀にはほぼ 20 年に 1 度の安定した派遣を行っており、9 世紀前半も継続された。

遣唐使が果たした役割は、律令制度などの先進的な政治制度の導入や仏教や漢詩文のような高度な国際的文化をもたらすことである。具体的には、804 年の遣唐使で入唐した最澄(767～822)・空海(774～835)による新仏教導入や嵯峨天皇(位 809～23)期にみられる唐風文化の発展などに貢献している。

### ②9 世紀後半～10 世紀前半

日中関係は 9 世紀後半に劇的に変化する。894 年に遣唐使派遣の任命が下ったが、遣唐大使菅原道真(845～903)の中止の建議により、遣唐使は派遣されなくなった。この理由としては、9 世紀後半には、唐の商人が盛んに日本に來航するようになったこと、唐はすでに衰退していたうえ、新羅との関係悪化を受けて航海ルートも危険な南路や南島路となっていたため、前述のような派遣のメリットがデメリットに見合わなかったことが挙げられる。

907 年にはついに東アジアの中心であった唐は滅亡し、中国では五代十国の諸王朝が興亡する時代に突入した。このうちの中国南東部の江南の杭州に都を置いた呉越国から、商人が來航し、文化を日本に伝えた。

### ③10 世紀後半

前述のような時代を経て、960 年には中国は宋(北宋)によって再統一された。しかし、日本は東アジアにおける動乱に巻き込まれるのを避けることに加えて、朝貢関係を嫌ったために、宋と正式な国交を結ぶことはしなかった。

しかし、正式な国交が結ばれなかったなかでも、日中間交流は続いていた。この日中間交流を担ったのは、宋の商人との私貿易であった。九州の博多に來航した宋の商人を通じて、書籍、陶磁器、薬品などが輸入され、金、水銀、硫黄、真珠が輸出された。さらに、日本人の渡航は禁じられていたが、天台宗・五台山への僧の巡礼は例外的に認められることもあったので、奝然(938～1016)や成尋(1011～81)らの僧のように、僧のなかには宋の商人の船で入宋し、宋の文物をもたらしたのもいた。

上記のように、9・10 世紀の日中間交流は、初めは朝貢形式による交流であったが、徐々に私貿易による交流に変化していく過程をたどっていったのである。

以上をまとめて解答しよう。

(浦地智暉, 釈迦戸雅史)

# 2015年度 大阪大学 前期 日本史

## (II) 鎌倉幕府と御家人の窮乏

出題範囲	中世の政治・社会史
難易度	★★☆☆☆
所要時間	15分
傾向と対策	第2問は、鎌倉時代の御家人の窮乏に関して問う問題であった。論述における基本問題の組み合わせといってもよく、基礎を丁寧におさえていれば、難なく解答できたであろう。しかし基礎中の基礎ゆえに、論述問題の演習として改めて取り組むことが少なかったかもしれない。このような問題に足元をすくわれないよう、基本問題に対してもしっかりと取り組んでおこう。

### 《この解説の使い方》

**黒太字** …この試験で合格点を取るために必要な頻出語句を黒太字で記載した

**赤字** …解答に関連する語句・内容および知識としておさえておきたい内容を赤字で記載した

**青字** …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい年号を青字で記載した

### 解答例

分割相続が繰り返されることによって所領が細分化され、貨幣経済の発展に巻き込まれて御家人は経済的に窮乏した。また、元寇の恩賞が不十分であったことや、元寇や西国警備の負担増加も御家人の窮乏を招いた。幕府は永仁の徳政令を発し、御家人領を取り戻させることを狙い、金銭訴訟を受け付けないこととして窮乏を救おうとしたが効果は薄かった。嫡子が全部の所領を相続する単独相続が一般的になり、武士団は血縁的結合から地縁的結合を重視するようになった。(214字)

### 設問の要求

**字数** 200字程度

**主題** 鎌倉時代後期の御家人の窮乏の原因

御家人の窮乏に対する幕府の対応

**条件** 窮乏化がもたらした御家人の一族における結合のあり方の変化について述べる

### 解説

本問を大きく分けると、御家人の窮乏化の原因、御家人の窮乏化に対する幕府の対応、窮乏化がもたらした結合のあり方の変化の3つの事項が問われている。それぞれについて考えていこう。

### ①御家人の窮乏化の原因

文永の役・弘安の役（蒙古襲来）による出費が御家人の生活を圧迫し、幕府は新たに土地を獲得していないため、恩賞も不十分であった。そのため、御家人の窮乏化が進み、御恩と奉公を基本とする幕府の支配が動揺した。さらに、御家人たちは異国警固番役として動員されたことで負担も積み重なり、ますます窮乏は進んだ。

御家人の窮乏化の原因は、元寇のみにとどまらなかった。所領の分割相続を繰り返すことによって、所領の細分化が進んだ。また、幕府の支配が全国化し御家人の所領も各地に散在するようになったこと、商業の活性化による貨幣経済の発展などを背景に、代銭納や為替など、貨幣を介した取引が盛んになっていた。こうして御家人たちは貨幣経済に組み込まれ、物価変動の影響を直接的に受けるようになり、彼らの生活は不安定化した。

### ②御家人の窮乏化に対する幕府の対応

時の執権北条貞時(1284～1301)は窮乏化した御家人を救済する対策をとった。それが1297年に発布された永仁の徳政令である。今後の御家人の土地売買・質入れを禁止すること、御家人への売却地は20年未満の土地に限り無償で取り戻せること、非御家人・凡下（高利貸）への売却地は年数に関係なく無償で取り戻せること、越訴（再び訴えること）の禁止、金銭訴訟を受け付けないことを定めた。しかし、効果は一時的であり、所領の売買の禁止と越訴の禁止は翌年に廃止された。金融業者である借上が被害をうけ、御家人たちが彼らから金銭を借りることが難しくなったため、御家人はさらに窮乏することになった。

### ③窮乏化がもたらした結合のあり方の変化

やがて相続方法は、惣領の単独相続に変化していった。この傾向に伴い、女性の地位も低下し、女性への相続も本人一代限りで死後は惣領に返す一期分の形が多くなった。分割相続のもとで、惣領中心に団結していた武士団の惣領制が崩れたことで、惣領制に基盤を置いていた幕府支配は動揺した。その結果、庶子が家臣として惣領に従属化したり、独立したりする傾向がみられるようになった。惣領制が解体すると、武士団の構成は血縁的結合から地縁的結合へと変化していった。

以上をまとめて解答しよう。

(久米光仁, 帆玉光輝, 藤森千佳)

## 2015 年度 大阪大学 前期 日本史

### (III) 参勤交代制度

出題範囲	近世の政治・社会・経済史
難易度	★★★☆☆
所要時間	20分
傾向と対策	第3問は、参勤交代制度について問う問題であった。具体的内容および社会に与えた影響については頻出であるため、容易に書くことができるだろう。しかし、制度の変遷については、江戸時代通しての歴史的知識が要求されており、このポイントをしっかりと書くことが高得点を獲得するためのキーとなった。江戸時代の幕政改革について、内容と改革を行った人物を覚えておくことが大切であったろう。

#### 《この解説の使い方》

**黒太字** …この試験で合格点を取るために必要な頻出語句を黒太字で記載した

**赤字** …解答に関連する語句・内容および知識としておさえておきたい内容を赤字で記載した

**青字** …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい年号を青字で記載した

#### 解答例

徳川家光により、武家諸法度寛永令で制度化された参勤交代制度は、諸大名に一年ごとの国元と江戸の往来および妻子の江戸住みを強制したものであった。参勤交代の負担は重く、大名家の財政は窮乏した一方で、陸上交通の発達、中央文化の地方波及をもたらし、江戸を大消費都市へと成長させた。徳川吉宗により上げ米が実施された時は一時的に在府期間が半減され、文久の改革時は三年一勤に緩和されたが、これらはかえって将軍権力の低下を招くものであった。(211字)

#### 設問の要求

**字数** 200字程度

**主題** 参勤交代制度の内容と社会に与えた影響

**条件** 参勤交代制度の歴史的変遷にも留意する

#### 解説

本問を大きく分けると、参勤交代制度の具体的内容・参勤交代が社会に与えた影響・参勤交代制度の歴史的変遷の3つの事項が問われている。それぞれについて考えていく。

#### ①参勤交代制度の具体的内容

参勤交代制度は、1635年に3代将軍徳川家光(任 1623~51)が発布した武家諸法度(寛永令)で制度化された大名統制策の1つであり、諸大名に国元と江戸を1年交代で往来することを義務付け、妻子に江戸住みを強制するものであった(ただし、関東の大名は半年交代であるなど例外が存在した)。武士政権は封建的主従関係にもとづき成り立つものであり、参勤交代は平和の世が実現されたなかで、将軍に対する忠誠を示すための奉公として、制度化されたものである。参勤交代が大名に与えた影響は大きく、妻子を住ませるための屋敷を江戸に構えることや家臣を大勢連れて往来することは重い負担となり、大名家の経済力は著しく削られてしまう結果となった。その一方で、多くの家臣を引き連れた大名行列は将軍権力を全国に示すことに役立ったのである。

## ②参勤交代が社会に与えた影響

1つ目は陸上交通の発達をもたらしたことである。江戸幕府成立初期から五街道を中心に全国的交通網の形成が進められていたが、参勤交代の制度化により、交通量が急激に増加し、陸上交通は急速に発達していった。それに伴い、幕府によって宿泊設備(本陣・脇本陣や旅籠屋)や荷物の継送りをを行う問屋場の設置が行われるなど宿駅が整備され、陸上交通制度の充実がもたらされた。さらに流通の充実が中央文化の地方波及をもたらしたことも参勤交代の影響といえる。

2つ目は江戸が大消費都市として発展したことである。参勤交代によって多数の武士が江戸での生活を強いられたため消費が増加し、さらにその武士の生活物資を供給する商人・職人も江戸に集まったことによって、江戸は大消費都市となっていった。

## ③参勤交代制度の変遷

家光により制度化されたこの制度は8代将軍徳川吉宗(任 1716~45)により一時的な変更が加えられた。吉宗は5代将軍徳川綱吉(任 1680~1709)の時代以降の財政難に対応するため、さまざまな財政再建策をとった。その中で、吉宗は上げ米実施の代償として参勤交代の負担をゆるめて、在府期間を半年にしたのである。しかし、従者である大名に将軍が物を乞うことは恥辱であるうえ、重要な奉公の1つである参勤交代の負担を緩めることは主従関係を揺るがしかねないため、のちに上げ米制は廃止され、参勤交代の期間ももとに戻された。

次に変更が加えられたのは1862年の文久の改革時である。島津久光(1817~87)が推進した文久の改革では、政治総裁職に松平慶永(1828~90)が、将軍後見職に徳川慶喜(1837~1913)が、京都守護職に松平容保(1835~93)がそれぞれ任命された。文久の改革の際に参勤交代制度が変更されたことは教科書でも記述が少なく、受験生にとって思い当たるのが難しかったかもしれない。文久の改革では、参勤交代は大幅に緩和され、三年一勤となった。これは諸大名の経済的負担の軽減を意図したものであったが、将軍権力の低下を招き、幕府の崩壊を助長する結果となった。

以上をまとめて解答しよう。

(浦地智輝, 帆玉光輝)

## 2015 年度 大阪大学 前期 日本史

### (IV) 日中戦争期の経済統制

出題範囲	近現代の経済史
難易度	★★★☆☆
所要時間	20 分
傾向と対策	第 4 問は、戦時中の政府による経済統制について問う問題であった。解答に盛り込むべきキーワードを漏らさず思い出せるか、そしてそれらを整理して記述できるかが高得点のカギとなるだろう。対策としては、戦時期の日本経済や戦時中の市民生活といったテーマごとに政策や出来事を整理して覚えておくことが挙げられる。社会経済史は苦手な人が多い分野だが、戦時経済統制については教科書や参考書にまとめて記載されている場合が多いので、きちんと確認しておきたい。

#### 《この解説の使い方》

**黒太字** …この試験で合格点を取るために必要な頻出語句を黒太字で記載した

**赤字** …解答に関連する語句・内容および知識としておさえておきたい内容を赤字で記載した

**青字** …この試験で合格点を取るためにおさえておきたい年号を青字で記載した

#### 解答例

政府は国家総動員法を制定し、物資や労働力を戦争のために動員し国民生活にも厳しい統制を行った。産業面では、企画院を設置して物資動員計画を作成させ、軍需品の生産を最優先として賃金や価格の統制を行った。さらに、国民生活面では、国民徴用令によって軍需産業に一般国民を動員した。軍需優先により民需品が不足すると価格等統制令によって公定価格制が導入され、砂糖などは切符制となった。米は配給制となり、農村では供出制が実施された。(207 字)

#### 設問の要求

**字数** 200 字程度

**主題** 経済統制の展開

**条件** 日中戦争の勃発から 1945 年の敗戦に至るまで

#### 解説

戦時中の経済統制について問われている。まず思い出したいのが 1938 年に制定された**国家総動員法**であるが、このように政府が日本全体を戦争に協力させた具体的な内容を、産業面と国民生活面に分けて整理したい。

### ①産業面

全体として強調したいのは、戦争に向けて軍需品生産が優先され、賃金や価格の統制が行われたことである。また、産業面のキーワードとして落としてはならないのは企画院の設置である。1937年に置かれた企画院は、物資動員計画を作成し軍需品の優先的生産を各企業に促した。各企業も政府に協力し軍事物資を積極的に生産したが、原材料や高性能機械の輸入量が不十分だったため品質は低いままだった。

さらに、国民徴用令によって一般国民が軍需産業に動員されたことも記述したい。

### ②国民生活面

政府は、戦争に必要な物資の調達を最優先とするため国民生活にも介入した。

軍需品の生産優先により生活必需品が不足すると、政府は1939年に価格等統制令を出して公定価格制を導入した。さらに、国民に質素儉約を求め、1940年には七・七禁令でぜいたく品の製造・販売を禁じた。砂糖やマッチ、衣料品などは切符制が導入され、1941年には米が配給制となった。

米に関しては、農村では供出制が実施され、国による強制的買い上げが行われたことも記述したい。政府は小作料の引き下げなどにより地主の取り分を縮小し、小作人の意欲を高めて米の生産を増やそうとしたが、生産手段の不足により食糧難は深刻になっていた。上記のように、政府は国民を戦争に全面協力させるためさまざまな方法で経済統制を行った。

以上をまとめて解答しよう。

ちなみにこの時期、国民の精神も戦争へ向かわせるため、政府は国民精神総動員運動などの思想統制を行ったことも確認しておきたい。詳しい戦時統制については以下の【参考】を参照してほしい。

また、設問文の「戦後の日本社会まで強い影響を与えた」に関連して、1940年体制についても触れておく。これは、戦時下での経済改革が戦後の日本経済においても引き継がれ、高度経済成長の基礎となったという考えである。1939年の価格等統制令発布や1940年の大日本産業報国会の発足などにみられる国による経済統制は、官僚主体の現在の経済体制にもつながっているとの見解もある。本問で問われているのは「日中戦争勃発から1945年の敗戦に至るまで」であるのでここまで答える必要はないが、知っておくと良いだろう。

## ◆参考

## 日中戦争以降の戦時統制と総動員体制構築

年	月	国内の主な出来事	月	対外関係
1937	9	臨時資金調整法 輸出入品等臨時措置法	7	日中戦争の開始
	10	企画院設置 国民精神総動員運動の提唱	11	日独伊三国防共協定
1938	4	国家総動員法		
1939	7	国民徴用令	8	独ソ不可侵条約締結
	10	価格等統制令		
1940		新体制運動の開始：近衛文麿の提唱 米の供出制実施		
	6	砂糖・マッチの切符制実施		
	7	奢侈品等製造販売規則…七・七禁令		
	10	大政翼賛会結成	9	日独伊三国同盟 北部仏印進駐
	11	大日本産業報国会結成		
1941		米穀配給通帳制	7	南部仏印進駐
			12	太平洋戦争の開始

(下谷佳楠, 帆玉光輝)